

日 時：平成25年6月6日（木）  
午後3時～4時30分  
（終了予定）  
場 所：水戸市国際交流センター

## 水戸市中心市街地活性化協議会運営委員会

### 次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

（1）定時総会に上程する事項について

- ・平成24年度事業報告及び収支決算報告について
- ・平成25年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

（2）平成25年度の専門部会事業について

4. そ の 他

5. 閉 会

# 水戸市中心市街地活性化協議会『運営委員会』報告書

[日 時] 平成25年6月6日(木) 午後3時～午後4時40分

[場 所] 水戸市国際交流センター

[出席者] 委員30名(内委任状出席9名)、アドバイザー1名、事務局3名

[報告者] 事務局(振興部 商工振興課)

[議 題] (1) 定時総会に上程する事項について  
(2) 平成25年度の専門部会事業について  
(3) その他

[議 長] 松本治郎 運営副委員長

水戸市中心市街地活性化協議会の平成25年度事業計画(案)など総会に提案する事項について協議する運営委員会を開催した。

また、本運営委員会には、和田祐之介協議会会長(水戸商工会議所会頭)が出席した。

## 1. 開 会

2. あいさつ 松本運営副委員長

和田会長(水戸商工会議所会頭)

※齋藤典生氏が3月で運営委員長を辞任されたことに伴い、現在運営委員長が空席となっているため、松本運営副委員長にごあいさつをいただいた。新運営委員長は総会で決定される。

議事に入る前に事務局から運営委員及びアドバイザーの変更について紹介した。

- ・(株)JR東日本水戸支社 企画室長 齋藤 道法氏
- ・NHK水戸放送局 副局長 河津 信三氏
- ・県商工労働部中小企業課 主事 箱石 友之氏

事務局の人事異動について報告した。

## 3. 議 題 ※松本運営副委員長を議長に協議に入った。

(1) 定時総会に上程する事項について

- ・平成24年度事業報告及び収支決算報告について事務局から資料を基に説明。  
原案どおり承認され、6月21日開催の定時総会に上程する。
- ・平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について事務局から資料を基に説明。  
三上運営委員(副会長)が「資料No3 中心市街地活性化の基本方針」について説明。  
原案どおり承認され、6月21日開催の定時総会に上程する。

(2) 平成25年度の専門部会事業について

各専門部会の部会長、副部会長から各部会の事業計画について説明があった。

### ◆街なか居住・市街地整備部会

- ・中心市街地の人口を1万5千人から倍にする具体的な策について考えたい。
- ・水戸市が行う基礎調査と連携または役割分担をして、平成22年に行った「街なか居住推進に係

る基礎調査」の追跡調査をしたい。

- ・車を使わないライフスタイルを考えたい。
- ・まちなかと千波湖・偕楽園の導線を考えたい。
- ・住宅、文化（コンベンションホール）、付属する商業・サービスを考えたい。

#### ◆商業・賑わいづくり部会

- ・多彩なイベントを把握して、バックアップしたい。
- ・たまり場がないので、場所の設定をしたい。
- ・新鮮市と連携して、買い物難民対策をやっていききたい。小さな空き店舗を活用したい。
- ・まちなか情報交流センターでは、まちなかステージ（北口ペDESTリアンデッキで月1回）、まちなかラボラトリー（若者のたまり場）、まちみせ（買い物弱者対策）事業などの実施を予定している。

#### ◆交通・福利向上部会

- ・65歳以上の人口が3割を超える。足をどうするのが問題。公共交通の利用促進をやっていききたい。
- ・脱車社会を目指す。調査研究をしていく。

### (3) その他

和田会長から、資料を基に、中心市街地活性化について私案の説明があった。「コンセプトは、『水と緑と学問』の伝説の街水戸。文化と歴史を中心に水戸らしい街をつくりたい。」

その後、出席委員との意見交換とした。主な意見は以下次のとおり。

- ・現在の中活基本計画は平成26年度まで。今年度から次の計画に向けて、作業に入る。  
ー水戸市と共同で進めていきたい。
- ・中活基本計画の作成にあたっては、意見交換をしながら、つくっていききたい。  
ー今年度基礎調査を行う予定。内容について早い段階で相談させてもらいたい。
- ・夢を形にする実行力が大事。当所まちづくり委員会では、市民との意見交換会を実施して、市民が何を望んでいるかを絵にする作業を行っている。  
コンベンションホールは、泉町北地区へもっていききたい。  
何をして認定を要するのか、市と歩調を合わせたい。
- ・計画をどう具現化して、事業に結びつけるのか。理念の実現のために、どう行政をフォローするのか。
- ・住民が気付かないことを、気付かせることも必要。
- ・都市は、2つのパターンに分かれる。「大動脈流都市 駅と施設が離れている」例として池袋がある。※こまめにイベントをすることが重要。「毛細血管都市 裏まで発展している」例として原宿、渋谷。  
7月7日に公衆放送を使って、「都市の空のラブレター」というイベントを行ってはどうか。そうすれば、「愛があふれる水戸」というイメージが定着する。